

実践のまとめ（第3学年 外国語活動）

授業公開日 令和7年9月26日第5校時

授業者 三条市立月岡小学校

教諭 河上 洋平

1 研究テーマ

外国語学習入門期における学習意欲を高める指導の工夫

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

児童はこれまで、1・2年生段階において外国語を聞いたり話したり、外国語の音声に慣れ親しんだりした学習経験が少ない。そのため、日本語とは異なる音声や表現について抵抗感をもつ児童が少なからずいると考える。そこで本研究では、外国語学習の入門期における外国語活動の在り方や指導の工夫について研究し、「外国語が楽しい」と意欲的に学習に取り組むことができる児童を育成することを目指す。

(2) 研究テーマに迫るために

① 英語によるやり取りを楽しむことができる言語活動の設定

英語を用いてやり取りすることを通して、英語を話したり聞いたりすることができたという成就感をもたせたい。そのために、目的のある言語活動を設定し、どのような質問や答え、反応ができるのかについて考えさせる。児童が英語によるやり取りを楽しむことができるように、目的、状況、場面などを設定した言語活動を行う。

② 英語絵本を活用した帯活動での継続的な指導

英語絵本を活用して、英語の表現や音声に慣れ親しむことができるようにする。朝読書の時間等を活用して、英語絵本の読み聞かせを行い、児童が外国語を身近に感じたり音声を真似したりするなど、外国語に対して興味・関心をもつことができる時間を設定する。

(3) 研究テーマに関わる評価

本実践の効果を探るために次のような方法を用いて評価する。

① 児童に実践前と実践後にアンケートを行う。外国語活動の授業に対する意欲や英語の語句や音声、表現について慣れ親しむことができたかなどについて調査を行う。4月から本実践終了時までの期間で、選択肢や記述内容の分析などをもとに意欲の変容や語句の慣れ親しみなどについて調査を行う。

② 児童が言語活動を行った結果、どのようなやり取りができたのか、やり取りを行ってどのような思いをもったか、3回の実践後に発話の内容がどのように変化したのかなどについて、授業での活動中の見取りや児童の振り返りをもとにして、発話内容の変化の分析を行う。

③ 帯活動として行う英語絵本の読み聞かせによる活動が、児童の外国語学習に対する意欲の向上にどの程度つながったのかを調査する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Unit 5 What do you like? (Let's Try!1 文部科学省)

(2) 単元（題材）の目標

- ・日本語と英語との音声の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・クラスみんなの好きなキャラクターランキングを作るために、相手に何が好きかを尋ねたり、相手の質問に答えたりして伝え合う。
- ・相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えようとしたりする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物を表す語や、What do you like? I like～.の表現を理解している。〈知識〉 ・自分のことや相手のことについて、身の回りの物を表す語や、What do you like? I like～.を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。〈技能〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの好きなキャラクターランキングを作るために、相手のことや自分のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの好きなキャラクターランキングを作るために、相手のことや自分のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全4時間、本時4／4時間）

時数	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法 (評価方法は【 】内で記述する。)
1	・相手に何が好きかを尋ねたり答えたりする表現を知る。	・チャンツやゲームなどを通して何が好きかを尋ねたり答えたりする表現について慣れ親しむ。	・さまざまな身の回りのものの言い方を知り、日本語と英語の音声の違いや面白さに気付く。 【振り返り】
2	・相手に何が好きかを尋ね、相手が伝えた内容を聞き取る。	・今まで学習してきたことをもとに、聞き取りクイズを行う。	・What do you like? I like～.の表現を使いながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしている。 【行動観察】
3	・相手に何が好きかを尋ねたり答えたりする。	・インタビューを通して、児童、担任やCIRに好きなものを尋ねたり、相手からの質問に答えたりする。	・What do you like? I like～.の表現を使いながら、何が好きかを尋ねたり答えたりして、他の

		・クラスの好きな食べ物ランキングを作る。	児童と積極的に交流している。 【行動観察、振り返り】
4 (本時)	・友達は何が好きかを尋ね合う。	・クラスの好きなキャラクターランキングを作る。	・相手に伝わるように工夫しながら、何が好きか尋ねたり答えたりする。 【行動観察、振り返り】

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元では、身の回りにある外来語を中心に、日本語と英語との音声の違いに着目して、様々な活動を通して発音に慣れ親しんだり、使えるようにしたりする。これまで児童は、好きなものや嫌いなものについて聞いたり伝え合ったりする表現を学び、友達にインタビューを行った。本単元では、ある種類の中で何が好きなのかを尋ねたり答えたりする活動を行い、自分や友達への新たな気付きや関係づくりを促すきっかけになることを期待する。

(2) 児童の実態

本学級の児童（男子 10 名、女子 14 名）は、意欲的に学習に取り組むことができ、初めての外国語活動の学習に対しても英語の音声や表現を楽しんで学習している。外国語活動の時間には、学習した表現を進んで活用して友達に質問したり、質問に答えたりすることもできる。しかしながら、初めての外国語活動の学習に自信をもてず不安を感じる児童も少なくない。そこで、本単元では、外国語学習に対する不安を解消するとともに、クラス替えから半年が経過し、友達への興味・関心が高まっていることから、英語を通して友達への新たな気付きを得ることができるよう、「クラスの好きなキャラクターランキングを作ろう」という、児童にとって身近なトピックを取り入れた言語活動を設定する。

5 本時の展開

(1) ねらい

クラスの好きなキャラクターランキングを作る活動を通して、友達の好きなものを尋ねたり、自分の好きなものを答えたりすることができる。

(2) 展開の構想

本時では、好きなキャラクターについて尋ねたり答えたりしながら、「クラスの好きなキャラクターランキングを作る」という言語活動を設定する。児童は友達の好きなキャラクターを尋ねることで、友達の新たな一面に気付いたり友達に共感したりするのではないかと考える。児童の興味・関心のあるキャラクターを題材として導入することで、児童が友達の好きなキャラクターを知りたい、自分の好きなキャラクターを伝えたいという意欲を高められるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5	・ 始めの挨拶 ・ 前時までの復習	T: これまでにどんな学習をしましたか。 C: クラスの人の好きな色や食べ物を予想してインタビューした。 T: 今まで学習したことを生かして、今日はクラスの好きな○○ランキングを作りましょう。	◇インタビューの目的を想起させ、本時の活動へつなげる。 ◇児童がランキングを作りたいという意欲をもつことができる導入をする。
5	・ 好きなキャラクターについて尋ねる。	T: I like アンパンマン. I have some アンパンマン dolls. □□さん、Do you know アンパンマン? C: Yes, I do. T: Do you like ばいきんまん? T: Do you like ジャムおじさん? C: No, I don't. T: Do you like ちびぞう? C: No, I don't. C: 全部好きじゃない。すぐに好きなキャラクターを知ることができたらいいのに。	◇児童を一人選び、Do you like ~?の聞き方で尋ねる。 ◇Yesと答えるまで質問を繰り返す。 ◇児童の困り感を学習問題○へつなげる。
5	学習課題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ◎ どうすれば相手の好きなキャラクターを知ることができるかな。 </div> T: どうやって聞けば好きなキャラクターが分かるかな。 C: 何が好きか聞いてみればいいよ。 C: 前に練習したWhat food do you like?のように、聞いてみれば分かるよ。 C: アニメのキャラクターは、そのまま英語でcharacterと言えばいいのかな。 T: What character do you like?で聞いてみましょう。 C: I like あかちゃんまん。 T: Oh, It's cute.	○前時までに学習した表現を生かせることに気付かせる。 ○児童と授業者でやり取りのデモンストレーションを行う。 ◇児童の発話に反応したりジェスチャーをつけたりする。
10	やり取り	C1: I like アンパンマン. What character do you like? C2: I like ばいきんまん。 C1: Oh, good. C2: What character do you like? C1: I like しょくぱんまん。 C2: Nice.	◇席を移動しながら、数人の児童とやり取りさせる。 ○質問や答えに自信がもてない児童がいる場合は、聞き方や答え方を全体で共有する。

		<p>T: ○○さんと□□さんのペアがとても素敵なやり取りをしていました。今から見せてもらいます。どんなところが素敵だと思いますか。</p> <p>C: ジェスチャーを付けたり、答えた後に、goodと言ったりするのがいいと思います。</p> <p>T: 次のやり取りで頑張ることを決めましょう。</p> <p>※上記の指導の後、異なるペアで再度、やり取りさせる。</p>	<p>◇反応したりジェスチャーをつけたりしたペアのやり取りを取り上げ、中間指導を行う。</p> <p>○ジェスチャーや反応に目を向けさせ、次のやり取りで取り入れたいことを決めさせる。</p>
15	クラスの好きなキャラクターランキングづくり	<p>T: 今のやり取りをしながら、クラスの中でどのキャラクターが一番人気かみんなで調べたいと思います。皆さんは、何が一番人気だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランキングづくりの前に代表児童とデモンストレーションを行う。 ・やり取り①と同じようにやり取りを行う。やり取りは自由交流とする。 ・1回のやり取りが終わったら、黒板に掲示された表に、児童がシールを貼る。 	<p>◇クラスで一番人気なキャラクターを予想させ、ランキングづくりへの意欲を高めさせる。</p> <p>□好きなキャラクターについて進んで質問したり、答えたりしている。(行動観察)</p>
5	振り返り	<p>C: 今日は好きなキャラクターについて聞いたり答えたりしました。ジェスチャーを付けて答えるのが楽しかったです。みんなの好きなキャラクターやクラスで人気なキャラクターを知ることができて嬉しかったです。</p>	<p>◇時間があれば、数人の児童の振り返りを全体共有する。</p>

(4) 評価

A: 進んで質問したり、答える際にジェスチャーを付けたり反応したりしながらやり取りを行っている。

B: 進んで質問したり答えたりしている。

B評価に満たない児童への支援：授業者と一緒に質問したり、答える際に指差しをさせたりして活動に参加できるようにする。

6 成果と課題

(1) 実践を振り返って

図1は、4月に外国語活動の授業を行った後に実施した児童アンケートの結果である(欠席1名)。肯定的評価を示している児童の自由記述を見ると、「授業が楽しい」、「ビンゴができるから」、「英語を話せると外国の人と友達になれるから」、「英語で何と言っているのか考えるのが楽しいから」、「英語を話せるようになったら楽しそう」などという記述が見られた。一方で、否

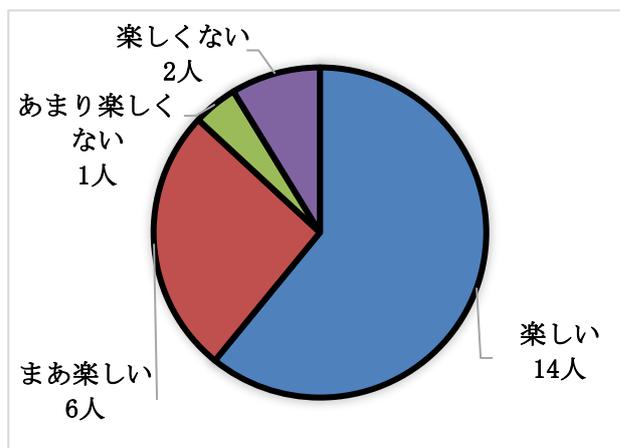


図1: 事前アンケート「外国語活動の授業は楽しいですか」についての児童の回答 (4月)

定的な評価をしている児童は、「先生の話している英語の意味が分からない」「難しい」などという理由を挙げた。

このことから、外国語活動を学び始めた4月当初に肯定的な評価をした児童は、外国語活動の授業や、授業中に行われるゲームなどの活動に面白さや楽しさを感じたり、他者とコミュニケーションを図ることに楽しさを感じ、興味・関心を示したりしていることが分かる。これに対して、否定的な評価をしている児童は、言語面に対して分かりづらさや抵抗を感じていることが分かった。

また、図2は3回の実践を行った後に実施した事後アンケートの結果である（欠席2名）。事後アンケートでの児童の肯定的評価の記述には、「発音を上手く言えると楽しい」、「いろいろな英語を楽しく音楽に合わせて歌うことが楽しい」、「英語で先生が話していることが自分で分かると楽しい」、「英語を覚えて言うことが楽しい」などの記述が見られた。一方、否定的な評価をしている児童の記述には、

「習い事の英語で学習したことしか出てこないから」、「英語が難しく分からないから」、「英語を話すのが嫌い」という記述が見られた。

このことから、事後アンケートで肯定的評価を示した児童は、英語の語句や音声に興味をもって学習に取り組むことができたことや、外国語が理解できたり相手とのコミュニケーションが成立したりしたことに喜びを感じていたことが分かる。それに対して、否定的な評価を示した児童は、英語の表現や音声に対する理解に不安を感じていることや、英語自体に苦手意識を感じていることが分かった。

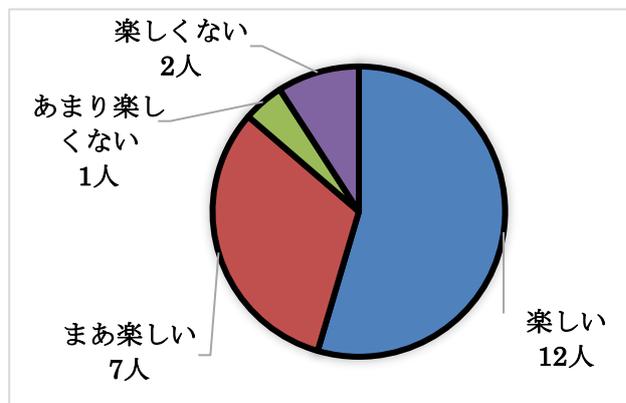


図2：事後アンケート「外国語活動の授業は楽しいですか」についての児童の回答（11月）

事前アンケートの回答と自由記述（回答）	事後アンケートの回答と自由記述（回答）
・言っている英語の意味が少し分からない。（まあ楽しい）	・よくゲームをしたり、先生が英語で言っていることが「あー！こう言っているんだ！」と分かったりすると楽しくなるから。（楽しい）
・少し大変そうだけど、英語を話せるようになると楽しそうだから。（まあ楽しい）	・いつも楽しくて、特に外国語活動の時間にするゲームが楽しいから。（楽しい）
・先生のお話が長いから。（楽しくない）	・もっと楽しく外国語を勉強したいから。（楽しい）

表1：事前、事後アンケートにおける自由記述の変容

また、表1は事前アンケートで「楽しくない」あるいは「まあ楽しい」と回答し、事後アンケートで「楽しい」と回答した児童の自由記述である。該当児童は、事前アンケートでは「英語を学習するのは少し大変」という思いをもっていたが、事後アンケートでは「いつも楽しくて、特に外国語活動の時間にするゲームが楽しい」という記述をした。また、事前アンケートで「楽しくない」と回答した児童は、事後アンケートでは「楽しい」と回答した。

自由記述には「先生のお話が長いから」という記述をしたが、事後アンケートでは「もっと楽しく学習したい」と、学習に対して前向きな意欲の変容が見られた。このことから、単元の目標を達成させるために、語彙や表現などをインプットするためのチャンツやゲームなどの活動を繰り返し行ったり、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行ったりすることで、児童が楽しみながら授業に取り組めるようになり、記述に大きな変容が表れたことが考えられる。

右図3-①は児童のやり取りの様子を示したものである。児童のやり取りから、相手の発話を受け止めたり反応したりすることに課題があることが分かる。各実践において、意図的に児童に反応を求めたり中間指導を行ったりしたことで、右図3-②のように、問いと答えを伝えるだけではなく、相手の発話を繰り返したり受け止めたりするなど、自然なやり取りを行うことができる児童が増えてきた。

(2) 帯活動としての英語絵本の活用について

英語絵本の読み聞かせは、月に1、2回程度行った。本実践での帯活動として読み聞かせをした英語絵本は、“*The Very Hungry Caterpillar*”、“*No, David!*”、“*Five Little Monkeys Jumping on the Bed.*”、“*Brown Bear, Brown Bear, What can you see?*”、“*Who’s There Spot?*”の5冊である。右図4は、“*The Very Hungry Caterpillar*”の読み聞かせを行った際の、児童の反応を示したものである。児童は、知っている英語であれば、授業者の質問に対して、英語で答える姿が見られた。また、「あおむし」が食べた果物を読む際に、授業者が指差しをしながら英語で数えると、授業者のリズムに合わせて児童も一緒に英語で数を数える姿が見られた。英語絵本の活用について、実践後の児童の感想は以下の表2の通りである。

C1: What color do you like?
C2: Red.
C2: What color do you like?
C1: blue.

図3-①：児童同士のやり取りの様子

C1: What character do you like?
C2: I like かびるんるん.
C1: かびるんるん！Me, too!
C2: What character do you like?
C1: I like かびるんるん.
C2: Nice!

図3-②：児童同士のやり取りの様子

T: (あおむしの卵を指しながら) What’s this?
C: Egg!
T: That’s right! It’s an egg.
C: It’s an egg.
(読み進める)
T: On Tuesday he ate through one, two (果物を指差して数えながら), two pears.
C: One, two! (授業者に合わせて数える)

図4：英語絵本の読み聞かせ場面での授業者(T)と児童(C)の様子

・英語を学習できるし、面白い。
・「次はどんなこと、どんな物が出てくるんだろう」と想像したりするのが楽しい。
・英語の物語で何を言ってるか分からないけれど、自分で想像しながら聞くのが楽しい。
・絵本でいろんなことが学べて楽しい。毎日やって欲しいくらい。
・絵が面白いし、お猿さんの絵本 (“ <i>Five Little Monkeys Jumping on the Bed.</i> ”) が面白かった。
・絵を見て判断するのが楽しい。

表2：英語絵本の読み聞かせについての児童の感想

児童の記述からは、挿絵の面白さに興味をもった児童がいたことが分かった。また、物語の展開を予想したり、語句や表現について学んだりすることができたことから、内容面の面白さについても理解することができた児童もいた。

(3) 成果

① 外国語活動を楽しむ児童の姿について

本実践では、外国語活動を初めて学ぶ児童にとって、外国語は楽しいものであるという前向きな気持ちをもったり、やり取りを楽しんだりすることができる活動を取り入れた。児童アンケートでは、事前、事後ともに外国語活動について肯定的に捉えている児童が8割程度いた。記述内容を検証していくと、4月当初は期待感をもった漠然とした楽しみについて記述していた児童が多く見られた。一方、実践後の11月には、学習に裏付けられた、より明確な楽しさを記述する児童が多くいた。このことから、本実践で取り組んできた帯活動での英語絵本の読み聞かせ活動や、授業で相手意識や目的意識をもたせた言語活動を取り入れたことが、児童が学習意欲を高めたり外国語活動を楽しむための有効な手立てであったりしたと考える。

② 英語絵本の活用について

英語絵本の活用が、児童の外国語学習の意欲向上に効果的であった。絵本を読む回数が進むにつれて、楽しそうに読み聞かせに耳を傾けたり授業者が出す発問に答えたりする姿が見られた。事後アンケートで「外国語活動の授業は楽しいですか」という質問に「楽しくない」と回答した児童が、英語絵本の活用についてのアンケートでは「楽しい」、「これからも英語絵本の読み聞かせを聞いてみたい」と回答した。英語の表現や音声について苦手意識や抵抗感のある児童にとっては、英語絵本の読み聞かせ活動が参加しやすい活動であり、楽しく英語に触れるきっかけになったのではないかと考える。

(4) 課題

外国語活動の授業や英語に慣れ親しみをもつことができた児童がほとんどであったものの、外国語に対する抵抗を感じる児童も2割弱いることが分かった。その児童の特徴として、「英語で何を言っているのか理解ができない」という英語の音声そのものに対する抵抗感をもったり、「塾で習っているものしか出ないから」という授業に対する物足りなさを感じたりしている点が挙げられる。抵抗感をもっている児童に対しては、スモールステップで活動を組むことや個別支援を行うことが必要であると考えられる。授業に対する物足りなさを感じる児童については、活動面で活躍の場を増やすことや知的好奇心を高めることができる活動の工夫を行う必要がある。今後は、外国語を「まあ楽しい」「楽しい」と感じる児童の意欲を維持しつつ、否定的な評価をしている児童が前向きに活動に取り組めるように工夫していく。

〈参考文献〉

「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」 文部科学省(2017.7)

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 国立教育政策研究所(2020.3)

「Let's Try!1&2の授業&評価プラン」 菅正隆(2018.6)

「小学校外国語活動・外国語授業づくりガイドブック」 菅正隆(2019.5)